



特集 2 総会・事例報告会 (第 130 回研修会)

図書室引越顛末記

伊藤 友香

I. はじめに

湘南藤沢徳洲会病院（以下、新病院）は、前身である茅ヶ崎徳洲会総合病院（以下、旧病院）の老朽化に伴い名称を改め、神奈川県藤沢市に2012年10月1日に開院しました。病床数419床、診療科36科、職員数約1,000名、建築面積6,258.7 m²、延床面積41,195.6 m²、地上10階地下1階。「生命だけは平等だ」の徳洲会グループの理念と「患者第一」「進化する病院」「協働」を柱に良質の医療を提供できる病院を目指しています。

旧病院に引き続き、図書室担当者は私と非常勤職員（9時から13時勤務）の2名です。患者さんへのサービスには、7名のボランティアスタッフにもご協力をいただいています。新病院では、職員図書室と患者図書室の管理を任せら

ることになり、職員図書室の表記を「医学情報センター」に変更しました。新病院では2つの図書室は隣接しています（図1）。

司書の行き来が容易で、相互の資料を効率よくシェアできる環境になっています。

II. 旧病院と新病院の比較

設備やレイアウトの変化を図1、2にまとめました。自画自賛ではありますが、ここで注目していただきたいのは広さです。患者図書室を合わせると181 m²と約2倍になりました。機会を見つけては院長や事務部長に「新病院での図書室はこうありたい」「患者さんの図書室を作りたい」など夢を語り、図書室に目を向けてもらうようにしていました。その努力が実ったのか、私の気迫が相当のものだったのかは不明ですが、

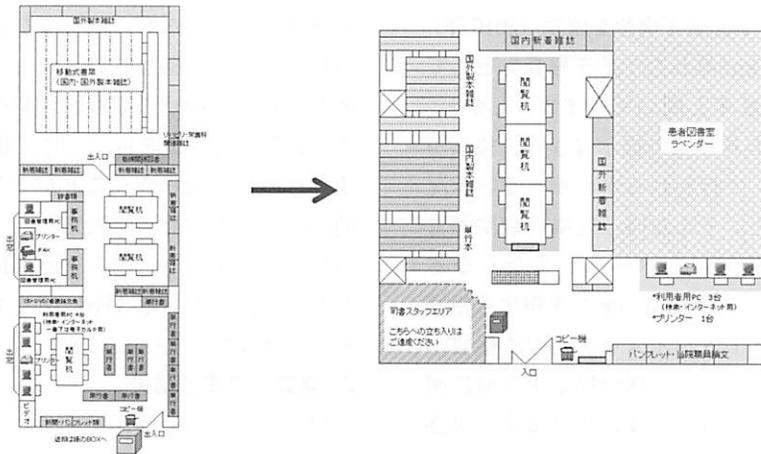


図1 旧病院と新病院の比較 その1

いとう ともか：湘南藤沢徳洲会病院 医学情報センター

	旧病院	新病院
場所	研修棟3階	本館3階
広さ	99.9㎡	181㎡ (患者図書室合わせて)
単行本書架	10連 (単独書架)	19連 (集密書架)
新着雑誌書架	10本	10本
雑誌バックナンバー書架 (集密書架)	54連	58連
閲覧席	14席	14席
インターネット端末	6台	6台
コピー機	1台	1台

図2 旧病院と新病院の比較 その2

設計図を挟んで上司と「ミリ単位の攻防」を繰り返した際にも、優位に交渉できたのではないかと思います。

什器に関しては集密書架のみ新規購入しました。旧病院と新病院ではサイズが異なるため、とは表向きの理由で、本音は「埋め込み式レール」への変更です。旧病院では、最上段の雑誌を取るのにとても苦労させられました。ちなみに手動式です。それは、東日本大震災の際、旧病院は計画停電区域内になり、非常電源を使用していたのが数カ月続いた過去があるからです。非常電源作動時は図書室には一切電気がきません。新病院では災害を考慮した建築構造になるのはわかっていたのですが、使用できなくなる状況は避けようと考えたのです。

Ⅲ. 新病院における図書室構想を確立 (2010年)

旧病院から3.6km離れた土地を移転先として確保したのは2008年と聞いています。しかし、2010年を迎えても具体案の提示はなく、移転がどのようなプランで行われるかわからない状況が続いていました。そんな時、近隣の病院図書室担当者から「移転後スペースが少なくなるケースが多い」「引越は日頃の夢を実現する絶好のチャンス」などアドバイスをいただく機会がありました。そこで、病院側が提示する前に図書室構想を確立し、臨機応変に動けるよう決意したのが2010年の夏でした。

1. 図書管理システムの導入

図書館総合展で情報収集した数社の企業にデモを行ってもらいました。カスタマイズの

幅が広い、オンラインジャーナルへのリンクが貼れるなどの理由から、高度情報システム「BLABO」を採用することに決めました。高額であるため予想通り上司は渋りました。「システムを買っていただけるなら、約30,000冊のデータ入力は担当者でがんばりますから」という、無謀な言い訳を最後まで通し購入できました。

2. 患者図書室の設立

職員用図書室の充実はもちろん、患者さんへの医療提供もこれからの病院には必要な分野です。そこで、NPO医療の質に関する研究会の患者図書室プロジェクトに協力をいただこうと思いました。そこで病院幹部へプレゼンをし、2011年度のプロジェクトへの応募の約束を取り付けました。

Ⅳ. 震災とデータ入力と患者図書室 (2011年)

1. 関係者へのアピール

新病院の設計図は二転三転どころか、どれが最新版かわからなくなるくらい変更を繰り返しました。図書室もその都度、広さも階もすべてが変わります。新病院関係の会議にはどんなことがあっても参加し、ささいな事でも発言しました。これは職員だけでなく、設計事務所や建設会社の担当者へのアピールでもありました。予算オーバーした際「おとなしい部署」から削られる可能性が懸念されるからです。設計事務所との打ち合わせの際も図書室構想を的確に伝え、必要な広さと備品、照明や電気、LAN環境までじっくり話し合うことができました。最終的に図書室の設計図が決定したのは2月頃と記憶しています。その後も細かな修正がありましたが、図書室のある3階に関しては手を加えられることはありませんでした。

2. 雑誌の廃棄と震災

想定内の広さを確保できましたが、数年経つと書架が満杯になる計算になったため、オンラインへ移行したタイトル・オンラインフリーのタイトルを中心に1,052冊の製本雑誌を廃棄しました。旧病院では図書室に隣接している当直

室にまで雑誌が侵食していたため、それらを図書室内の書架に引き上げることにしました。システムへのデータ入力しやすいよう、引越の際の箱詰め作業がしやすいように考えつつの、大掛かりな書架整理となりました。

そんな中、3月11日を迎えました。永遠に続くのでは、と錯覚するくらい大きな揺れが続き、目の前で書架がドミノ倒しになり図書が落下、集密書架では整理したばかりの製本雑誌が飛び出してきています。揺れがおさまった時には、本が散乱し、文字通り足の踏み場もない状態になりました。しかし、病院内の誰一人としてけがなく無事でいたことは、本当に嬉しかったです。

震災の後片付けには約1カ月かかりましたが、その間に近畿病院図書室協議会の総会と研修会に参加しました。会場が神戸だったのも何かの縁だったのではないのでしょうか。参加者の方からの笑顔と励ましの言葉、復興した神戸の街から元気と勇気をいただくことができました。

3. データ入力

システムの環境が整い、震災の後片付けも終わった5月より、国内雑誌と図書のデータ入力を開始しました。ただひたすら入力です。担当者2人で腱鞘炎になりそうな勢いでパソコンに向かっていました。図書約4,000冊、雑誌約27,000冊のデータ入力終了したのは翌年、2012年8月でした。2000年より製本を中止したため未製本雑誌が多かったこと、国内雑誌の特集記事をすべて入力したことで当初の予定より、時間がかかってしまいました。

4. 患者図書室

NPO医療の質に関する研究会「患者図書室プロジェクト」に応募したのが7月、無事二次審査を通過したのは11月です。新病院の開院1カ月後の2012年11月1日をオープン日に決定しました。

ここまでは全てが想定内で順調に着々と準備が進んでいました。引越作業も案外楽しい、などと余裕を考えていました。でも、これはいわ

ゆる嵐の前の静けさ、だったのです。

V. 予想外の出来事と司書の意地

(2012年その①)

それでも上半期はそれなりに順調でした。免震構造に使用するアイソレータ作成の工場見学に同行したり、患者図書室の備品が届きリストを見てわくわくしたり、新病院への夢と期待が膨らんでいました。衝撃的な事実を知ったのは7月17日。引越業者担当者とのヒアリングでの時でした。

1. 箱詰め・箱出し作業は契約外

図書室と医局が隣接しているわけではありませんが、そのような病院が多いせいか、医局秘書・臨床教育部・図書室と業者担当者とヒアリングでした。

「図書室の冊数はどのくらいありますか?」「30,000冊強です」「では数回に分けて日程を組んだほうがよろしいですね」「はい」「箱詰めした段ボールの置き場所は確保されていますか?その蔵書数だと1,000箱にはなりそうですから」「……?」「置き場所ですよ」「……?」「……?」「業者さんが数日前に詰めて運んでくださるのではないのですか?」「いや、図書室さん含め事務系は病院様が箱詰め・箱出しする契約になっていますので」「そこをなんとか」「いや、契約ですので」

そうです、まさかの契約外。ただでさえ狭い図書室にどうやったら1,000箱の段ボールを収納できるのだろうか。いやいや、それ以前に1,000箱の段ボールの箱詰めにどれだけの時間が必要なのだろうか。私の体力はいつまでもつのだろうか。頭の中はパニック状態です。業者担当の部署や上司などにも数回交渉しましたが「お金がないから」の一言で玉砕しました。

2. さらなる想定外

自力での箱詰め作業はすぐにも始めないと、なにしろ時間がありません。しかし、段ボールが配布されるのは8月16日。まだシステムへのデータ入力も残っていますし、患者図書室の書

籍約 600 冊の装丁にも手を付けていません。まずはこれらの作業を終わらせることにしました。

患者図書室に関しては病院全体の協力も必要です。ある朝、会議の場でその説明をした時、さらなる想定外の出来事が起こります。「なぜ 11 月オープンなのか。1 カ月もそのスペースを無駄にするというのか！」説明した私にある病院幹部が怒鳴りました。運の悪いことにオープン日を決めた院長は不在です。「院長の判断です」と言う私に「どれだけの投資をしていると思っているんだ！ 1 週間でもいいから早めるように！」患者図書室のスペースをお金に換算することが可能なのか？などと、くだらない思考回路に繋げないと爆発してしまいそうでした。司書の、いや、女の意地に火が付いた瞬間でした。院長と再度相談した結果、10 月 4 日に決定しました。どうですか、1 カ月早めたら文句はないでしょう。……これも単なる意地です。

患者図書室の図書装丁は 8 日間で終了。ラミネートかけ作業をしている私は鬼の形相だったに違いありません。全てのデータ入力も 8 月 14 日に終わらせることができました。

3. 箱詰めスタート

8 月 16 日、外国雑誌のバックナンバーの箱詰めに着手しました。1 カ月以上も箱詰めされるわけですので本来ならば平積みしたかったのですが、書架に戻す際に順番が逆になる可能性があったので、立てた状態に入れていきました。箱に詰めていく作業はある意味単純なので問題ありません。頭を悩ませたのは、段ボールの梱包順と置き場所です。

新病院では雑誌架と集密書架のみで、固定書架は置きません。そのため、旧病院の廃棄する書架の横板を全部外し、空いたスペースに段ボールを置いていくことにしました。縦向き・横向きペアで 4 段ずつ重ねると計 8 個収納可能。8×12 で 96 個置ける。この通路には 4 箱重ねられるので 4×10 で 40 個。あ、この机と机をくっつけてその上に 6 個、机の下には 12 個置けるから……、と、99.9 m²に 1,000 箱収められるよう

計算。同時に新病院での書架戻しの順番があるので、1 回目の引越で運ぶ段ボールが入口近く、後半のものは書庫、といったことも考えねばなりません。この三次元シミュレーションは個人的には楽しかったのですが、二度とやりたくありません。最終的に 150 箱強は廊下に置かざるをえませんでした。図書室内に収めることができた時は達成感でいっぱいでした。

VI. いざ、引越 (2012 年その②)

図書室の引越は 9 月 14 日 (500 箱：図書・新着雑誌・国内雑誌)、25 日 (300 箱：国内・国外雑誌)、28 日 (300 箱：国外雑誌・その他) と 3 回に分けて行いました。ここでも想定外の出来事がありました。新規購入した集密書架の設置日が当初の予定より大幅に遅れてしまったのです。理由は保健所の監査。終わるまで什器の搬入ができないわけではないのですが、病院が契約している業者以外の集密書架を購入したためリストアップされず、監査前の搬入をストップされてしまったのでした。運の悪いことに秋の連休に突入です。土日祝、業者は完全にお休みです。無事設置が終了したのは 9 月 20 日の 18 時。つまり、14 日に運んだ 500 箱はそのままだ。しかも、4 日後の 25 日には 300 箱の段ボールがやってきます。

1. 筋肉注射

さすがの私もこの辺りから妙なテンションになり始めました。朝の会議に出席するため、旧病院に出勤。メールチェックに文献処理などを行い、新病院まで 3.6 km を自転車移動。ひたすら配架。夕方、通常業務やメールチェックのため旧病院へ自転車移動。午後 10 時帰宅。翌日もその繰り返しです。ある日、両手の激痛で目が覚めました。完全なる腱鞘炎です。ドクターにお願いして筋肉注射を打ってもらいました。痛みは治まりましたが、実際には力が入らず未製本雑誌をよく落としていました。この注射は症状が出て 1 週間で打たないとあまり効果がないそうです。我慢強いことが良いわけではない

ようです。

2. 段ボールとの戦い

非常勤スタッフは13時までの勤務です。いつも「先に帰ってしまってください」と言われて帰られるのが私にとっても、辛かったです。病院側との交渉次第では、こんなバカみたいな状況にはなっていなかったからです。とはいえ、4日後には300箱がドドーンとやってきます。ラジオをかけ、音楽に合わせて歌いながら（相当重症です）段ボールを開けて雑誌を取り出し配架、空になったら次の段ボールを開けて……。9月24日20時49分、ここまで段ボールを減らすことができました（図3）。その16時間後、努力をあざ笑うかのように元通りの状態に（図4）。そしてこれらを2日間で書架に配架しないと28日に来る段ボール300箱と、パソコンや閲



図3 (2012年9月24日 20:49)



図4 (2012年9月25日 13:12)

覧席などの什器の置く場所がありません。

段ボールを開けて雑誌を取り出し配架、空になったら次の段ボールを開けて……。黙々と作業をした結果、28日には無事室内にすべてのものを収めることができました。

VII. 引越後と反省 (2012年その③)

10月1日新病院がオープンしました。4日には患者図書室ラベンダーのオープニングセレモニーを開催。ようやく、ここまで来ました。極度の疲労で9月27日辺りからの記憶が曖昧で、眠れない日々が続きました。19日振りの休みである10月6日も自宅で落ち着いて座っていることもできませんでした。限界が来たのは10月12日。とうとう職場で倒れてしまいました。

一人職場であることが多い病院図書館司書は、元来頑張り屋だと思います。自分で考え決定し行動することが当たり前です。9月23日の内覧会に司書仲間が来て「手伝うよ、何かできることない？」と声をかけていただきました。開院後に見学に来られた関係者にも「今からでも手伝うことがあったら言ってね」と言っていただきました。そうだ、一人ではなく仲間がたくさんいる。自分一人で抱え込んで、忙しくしていたのは誰でもない私の責任だったのです。ついつい目の前の課題を片づけることで精一杯になりがちですが、立ち止まって周囲を見回してやることを心掛けていこうと思いました。

- ・ 要望は早く伝えて損はなし
 - ・ 設計図は隅から隅まで見るべし
 - ・ 箱詰めは業者に頼むべし
 - ・ 写真をこまめに撮るべし
 - ・ 引越ノートになんでもメモすべし
 - ・ 仲間がいることを忘るるなけれ
- 以上が私の反省点です。

VIII. おわりに

今回の引越でさまざまな経験をすることができました。レイアウトの決め方や什器の選択方法などを知りたい方もいらっしゃると思いま

すが、あえて、このような表現方法をとらせていただきました。私のような失敗をしてほしくない、と思ったからです。

報告会では、過酷だった引越の記憶に動揺し支離滅裂な発表になってしまいましたこと、お

詫び申し上げます。その際の資料を踏まえ、大幅に加筆・修正させていただきました。このような機会を与えていただきありがとうございました。

現在の図書館の様子を図5、6に示します。



図5 現在の医学情報センターの様子



図6 現在の患者図書室の様子